

# 流通と S C ・私の視点

2009 年 4 月 30 日

視点(1094)

生産性と価値創造とは!!

経済や企業を発展させるためには、生産性の向上が不可欠です。生産性とは次の算式で表現されます。

$$\text{生産性} = \frac{\text{成果(アウトプット=価値創造)}}{\text{作業量(インプット=投入エネルギー)}}$$

すなわち、生産性を成果と作業量のマトリックスから見ると次の通りです。

|     |       |       |       |       |
|-----|-------|-------|-------|-------|
|     |       | A     | B     | C     |
|     |       | 成果向上  | 成果不変  | 成果減少  |
| (1) | 作業量増大 | 生産性不変 | 生産性低下 | 生産性低下 |
| (2) | 作業量不変 | 生産性向上 | 生産性不変 | 生産性低下 |
| (3) | 作業量削減 | 生産性向上 | 生産性向上 | 生産性不変 |

以上の内容をタイプ分けすると次の通りです。

| タイプ  |       | 内 容   |       |       |
|------|-------|-------|-------|-------|
| タイプ① | 生産性向上 | A-(2) | A-(3) | B-(3) |
| タイプ② | 生産性不変 | A-(1) | B-(2) | C-(3) |
| タイプ③ | 生産性低下 | B-(1) | C-(1) | C-(2) |

生産性は、インプットとしての「作業量」とアウトプットとしての「成果」の2面から見ることができます。

すなわち、インプットとしての「作業量」を削減することによる生産性の向上を「合理化による生産性の向上」と言い、アウトプットの「成果」を向上させる生産性の向上を「価値創造による生産性の向上」と言います(六車流：流通理論)。

生産性の向上は、アウトプットとしての価値創造を伴う場合、企業の発展や経済の発展に貢献します。しかし、生産性の向上それ自体は、アウトプットとしての価値創造がありません。すなわち、作業量を削減することによる生産性の向上は企業の発展や経済の発展には直接的には貢献できません。ただし、一定の成果を出すための作業量が削減されますので、合理化(作業量の削減によるコストの減少)は可能になります。

生産性の向上は合理化によるものと価値創造によるものと2つが存在し、合理化による生産性の向上は、売り手の生産性の向上であって買い手にとっては全く関係はありません。つまり、買い手の満足度を高めることはなく、売り手の経費節約による生産性の向上です。しかし、もう1つの生産性の向上である価値創造は、新たな価値の創造(顧客の満足度を高め、顧客の対価を向上させること)であるため、本当の意味の生産性の向上となります。

アメリカの1993~2007年までのバブル経済時において経済を牽引したのはIT産業でした。IT産業はソフトとハードの両面を持った21世紀の画期的な技術を持つ花形産業です。当然ながらアメリカの経済発展は価値創造に基づく生産性の向上によるものと思われていました。しかし、アメリカの経済成長は、1993~2001年まではITバブル(ITによる生産性の向上ではなく、ITの金融化による生産性の向上)と2001~2007年までは不動産と金融によるバブル経済であり、ITは直接的には生産性の向上に役立っていませんでした。ITの技術は素晴らしいものであるがゆえに、作業量を飛躍的に減少させ、成果は一定でも作業量を合理的にすることにより、物づくりをより速くより節約してつくり出すことができるようになりました。しかし、決して価値創造はできませんでした。逆に、IT企業は合理的に物づくりができるため、売値は低下し、価値づくりのない合理化しかできませんでした。今、我々はITを駆使して、単なる合理化から脱皮して、価値創造のできる段階に進歩しなければなりません。第1段階はITの技術のモノマネ、第2段階はIT技術による合理化、第3段階はIT技術による価値創造へと進歩しなければなりません。

(株)ダイナミックマーケティング社<sup>3</sup>  
代 表 六 車 秀 之